

1 くすみ・クマのメカニズム

日本医科大学皮膚科教授

船坂陽子

FUNASAKA Yoko

1 はじめに

くすみやクマは、シミ、シワと同様に美容皮膚科領域で相談を受けることが多い。これらがどのような皮膚の病態であるのかを理解して、治療方針を組み立てる必要がある。本稿ではこれらの発症メカニズムと対処方法について概説する。

2 くすみとは

女性を対象としたアンケート結果から、くすみを感じるときの肌状態について、血色の悪いとき、肌のはりが感じられないとき、肌のつやがなくなったとき、肌のきめが粗く見えたときなど複数の状態が挙げられている¹⁾。

くすみは肌状態を表す用語として広く認知されているが、その定義は1995年に日本化粧品工業連合会から提出された定義案によると、以下のとおりとなっている。「肌のくすみは、ある特定の現象である。顔全体または目のまわりや頬などの部位に生じ、肌の赤みが減少

して黄みが増し、また肌の“つや”や透明感が減少したり、皮膚表面の凹凸などによる影によって明度が低下して暗く見える状態で、境界は不明瞭である。その発生要因はいくつか考えられており、それらの要因が単独か複数関与することにより、現象として認識される。①血行不良による肌色の赤みの低下、②びまん的なメラニンの沈着、③皮膚の弾力が低下することにより生ずる皮膚表面の凹凸による影、④角層の肥厚などによる透明性(光透過性)の低下、⑤皮膚表面での乱反射によるつやの低下、⑥加齢に伴う皮膚の黄色化、である。なお、このほか、ほこり、汗、皮脂などの汚れにも関与して視覚的にくすんで見えるが、それらは単なる物理的な要因であり、洗い流せば消失するので他の要因とは異なる」とある¹⁾。表1、表2にこれらを簡条書きにまとめてみた。

3 くすみのメカニズム

くすみに対する肌の計測結果において、①メラニンと血流それぞれに由来するもの、両方に起因するものを合

表1 くすみとは

1. 肌の赤みが減少して黄みが増加
2. 肌のつやや透明感が減少
3. 皮膚表面の凹凸などによる影のため明度が低下

(文献1より作成)

表2 くすみの要因

1. 血行不良による赤みの低下
2. メラニンの沈着
3. 皮膚の弾力低下
4. 角層の肥厚
5. 皮膚表面の乱反射
6. 黄ばみ

(文献1より作成)